

公益財団法人 天文学振興財団
令和4年度事業報告
令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

1. 研究支援事業の概要（公1）

定款第4条で定めた公益目的事業の助成事業を展開しました。

令和4年度の助成事業は、[1]国際研究支援事業については、研究に対する助成は依然としてコロナ禍の影響が残り1件に留まりました。ただ、国際交流・国際研究集会は徐々に活動が活性化しており、7件の助成を実施しました。[2]普及・啓発支援事業では昨年度よりも6件多い21件の助成を行いました。

[1] 国際研究支援事業

[1]-1 研究に対する助成

（単位：円）

公 募	申請件数	申請額	助成件数	助成額	不採択件数	備 考
第1回公募	2	1,500,000	1	500,000	1	
第2回公募	0	0	0	0	0	
第3回公募	0	0	0	0	0	
小計	2	1,500,000	1	500,000	1	

[1]-2 国際交流に対する助成

第1回公募	0	0	0	0	0	
第2回公募	1	530,000	0	0	1	
第3回公募	0	0	0	0	0	
小計	1	530,000	0	0	1	

[1]-3-1 国際研究集会参加に対する助成

第1回公募	1	300,000	1	200,000	0	
第2回公募	0	0	0	0	0	
第3回公募	0	0	0	0	0	
小計	1	300,000	1	200,000	0	

[1]-3-2 国際研究集会開催に対する助成

第1回公募	1	993,482	1	500,000	0	
第2回公募	5	4,477,780	5	1,675,900	0	
第3回公募	0	0	0	0	0	
小計	6	5,471,262	6	2,175,900	0	

合 計	10	7,801,262	8	2,875,900	2	当初予算額 合計320万円
-----	----	-----------	---	-----------	---	---------------

[2]普及・啓発支援事業

(単位：円)

公 募	申請件数	申請額	助成件数	助成額	不採択件数	備 考
第1回公募	18	4,711,871	16	1,930,748	2	
天文学者へのオーラル ヒストリー	1	954,000	1	500,000	0	
小学生宇宙パラシュート 教室	1	400,010	1	200,000	0	
市民向け観望会、大人 向講座、講演	1	46,725	1	46,725	0	
でんすが天体観望会	1	416,558	1	150,000	0	
もしも君が杜の都で天文 学者になったら	1	356,516	1	250,000	0	
インターネット天文台化 にかかる予備研究	1	958,000	0	300,000	0	
Mitakaによる3D上映 と天文学普及	1	500,000	1	160,000	0	
次世代に伝えたい日 本の天文学	1	365,422	0	0	1	
公開講演会「Voyager から系外惑星探査」	1	347,000	0	0	1	
STAR WEEK 2022夏の星空観望会	1	58,700	1	58,700	0	スターウィーク2022
2022夏 星空案内in 西宮ガーデンズ	1	5,010	1	5,010	0	同上。
七夕星まつり・スターウ ィーク特別夜間観望会	1	100,000	1	60,000	0	同上
みんなで楽しむ天文・宇宙	1	70,000	1	70,000	0	同上
星や宇宙を楽しむ会	1	31,975	1	31,975	0	同上
夜間天体観測会	1	33,770	1	33,770	0	同上
天体観望会	1	34,830	1	31,213	0	同上
星空宅配便	1	19,450	1	19,450	0	同上
スター・ウィーク2022キ ャンペーン（実行委員 会）	1	13,905	1	13,905	0	同上 助成件数9件 助成額計 327,640円
第2回公募	4	726,000	3	267,600	1	
市民向け観望会、大人 向講座	1	57,600	1	57,600	0	
皆既日食データのアー カイブ化	1	278,400	1	140,000	0	
宇宙へのまなざし授 業	1	70,000	1	70,000	0	
天文教育用動画コン テンツ作成	1	320,000	0	0	1	
第3回公募	2	335,445	2	282,645	0	
市民向け観望会、大人 向講座、講演	1	82,645	1	82,645	0	
太陽デジタルアーカイ ブデータ処理と公開	1	252,800	1	200,000	0	
合 計	24	5,773,316	21	2,480,993	3	当初予算額 320万円

[1] + [2] 国際研究支援事業並びに普及・啓発支援事業

(単位：円)

公 募	申請件数	申請額	助成件数	助成額	不採択件数	備 考
国際研究支援	10	7,801,262	8	2,875,900	2	当初予算額 320万円
普及・啓発支援	24	5,773,316	21	2,480,993	3	当初予算額 320万円
合 計	34	13,574,578	29	5,356,893	5	当初予算額 640万円

2. 令和4年度研究支援事業の詳細

[1] 国際研究支援事業

国際研究支援事業の助成は以下のとおり。

[1] - 1 研究に対する助成

第1回公募（申請：2件、助成：1件）申請額計：1,500,000円【助成額計：500,000円】

第2回公募（申請：0件、助成：0件）申請額計：0円【助成額計：0円】

第3回公募（申請：0件、助成：0件）申請額計：0円【助成額計：0円】

申請：2件、助成：1件、不採択：1件 申請額総計：1,500,000円【助成額総計：500,000円】

[1] - 1 第1回公募

① 谷口 琴美（国立天文台 特任助教）

研究課題名：中間質量原始星周囲の炭素鎖分子の化学の解明

研究概要：1990年代には炭素鎖分子(CCS, HC3Nなど)は、星形成領域において若い星なしコアで豊富に存在し、コアの進化が進むにつれて存在量が減少することが知られていました。その一方で、2008年には炭素鎖分子が豊富に存在する低質量原始星が見つかり、最近の研究では大質量原始星周囲にも炭素鎖分子が存在することがわかり、低質量原始星及び大質量原始星周囲には化学的多様性が生じています。しかし、低質量星と大質量星の形成過程ではタイムスケールや物理環境が大きく異なるため、直接的に比較することは困難です。そこで、本研究では、中間質量($2 < M/M_{\odot} < 8$)原始星周囲の炭素鎖分子の多天体サーベイ観測を、野辺山45m望遠鏡に新しく搭載されたeQ受信機を用いて行い、この原始星周囲の化学組成について俯瞰的に理解することを目標としています。

成果概要：野辺山45m電波望遠鏡に新しく搭載されたeQ受信機を用いて観測を行う予定でしたが、装置の故障等により予定が遅れ、eQ受信機がサイエンスの観測に使用することができませんでした。財団の助成金の一部で購入したeQ受信機の立ち上げ観測のための望遠鏡使用時間でデモサイエンスデータを取得し、従来の受

信機よりも短時間で炭素鎖分子の検出が可能であることを示しました。これらの結果は ALMA/ASTE/NR045m User's Meeting や宇宙電波懇談会シンポジウムで発表を行っています。（報告書原文）

助成額 : 1件 500,000円

[1]－2 国際交流に対する助成

第1回公募（申請：0件、助成：0件）申請額計： 0円【助成額計： 0円】

第2回公募（申請：1件、助成：0件）申請額計： 530,000円【助成額計： 0円】

第3回公募（申請：0件、助成：0件）申請額計： 0円【助成額計： 0円】

申請：1件、助成：0件、不採択：1件 申請額総計： 530,000円【助成額総計： 0円】

[1]－3 国際研究集会参加および国際研究集会開催に対する助成

1. 国際研究集会参加に対する助成

第1回公募（申請：1件、助成：1件）申請額計： 300,000円【助成額計： 200,000円】

第2回公募（申請：0件、助成：0件）申請額計： 0円【助成額計： 0円】

第3回公募（申請：0件、助成：0件）申請額計： 0円【助成額計： 0円】

申請：1件、助成：1件 申請額総計： 300,000円【助成額総計： 200,000円】

[1]－3-1 第1回公募

① 張 天放（東京大学大学院理学系研究科附属天文学教育研究センター 博士課程1年）

研究集会名：EAS 2022

開催期間：2022/6/27～2022/7/1

開催場所：スペイン バレンシア

参加国数：不明 参加者数：現地600名、オンライン2000名

開催報告：日本国内では活動銀河核分野の中でも特にブレーザーを研究する学者が少なく、このような機会を通じて私はいろんな海外からの学者たちとブレーザーの可視光の変動について深く交流することができました。中でも、Tel Aviv UniversityからのDr. Jonathan Sternさんと Institute of Nuclear Physics of the Polish Academy of SciencesからのDr. Gopal Bhattaさんとの交流が大変勉強になりました。そして、彼らの研究結果の研究方法が自分の研究成果をうまく解釈するのに役に立ち、自分の研究に新たな方向性を見出してくれました。（報告書原文）

助成額 : 1件 200,000円

2. 国際研究集会開催に対する助成

第1回公募（申請：1件、助成1件）申請額計：993,482円【助成額計：500,000円】

第2回公募（申請：5件、助成5件）申請額計：4,477,780円【助成額計：1,675,900円】

第3回公募（申請：0件、助成0件）申請額計：0円【助成額計：0円】

申請：6件、助成：6件 申請額総計：5,471,262円【助成額総計：2,200,000円】

[1]-3-2 第1回公募

① 島尻 芳人（九州共立大学 共通教育センター 教授）

会議名：A half century of illi millimeter and submillimeter astronomy: Impact on astronomy/astrophysics and the future

開催期間：2022/12/15～2022/12/18

開催場所：宮古島市役所ホール（沖縄県宮古島市）

参加国数：6カ国 参加者数：国内60名・海外40名

開催報告：本研究会では、16件の招待講演、36件の一般講演（学生10名含む）、27件のポスター講演が行われた。望遠鏡や観測装置を含め、星・惑星スケールから銀河・銀河団スケールの幅広い分野の講演が行われた。最新の成果や将来計画を共有および議論を行うことができた。さらに、過去2年間に渡りオンラインでの会議や打ち合わせが続いていたが、対面開催により、次の3点の効果を確認することができた。(1)オンライン会議では停滞していたプロジェクトが一気に進展した、(2)現状のプロジェクトの進捗状況を詳しくシェアすることができ今後の進展に大きく貢献した、(3)若手-シニア間および若手同士の新たな交流が生まれた。

（報告書原文）

助成額：1件500,000円

[1]-3-2 第2回公募

② 富田 賢吾（東北大学大学院理学研究科天文学専攻 准教授）

会議名：International Research Collaboration Center Astro-fusion Plasma Physics (IRCC-AFP) First Annual Meeting

開催期間：2022/10/24～2022/10/28

開催場所：国立天文台三鷹キャンパス

参加国数：3カ国 参加者数：42名

開催報告：米国プリンストン大学・プリンストンプラズマ物理研究所及びドイツマックスプランク協会との国際共同研究を推進するため、また今後国内の研究機関を巻き込んだより広範な共同研究ネットワークへと発展させるため、これまでの研究成果をまと展させるため、これまでの研究成果をまとめ今後取り組むべき課題と共同研究の戦略を検討する国際研究会を開催した。3ヶ国から42人の参加者があり、

前半2日間の研究発表と後半3日間のワークショップにより今後取り組むべき11のテーマを選定し、今後国際的に共同研究を進めることで合意した。

(報告書原文)

助成額：1件 400,000円

③ 犬塚 修一郎 (名古屋大学大学院理学研究科 教授)

会議名：Protostars and Planets VII

開催期間：2023年4月10日～4月15日

開催場所：国立京都国際会館

参加国数：45カ国 参加者数：688名

参加報告：2023年4月10日～15日に、国立京都国際会館にて、国際研究会「Protostars And Planets VII」を開催した。本研究会は、7～8年に一度開催される、星形成・惑星形成・太陽系の分野で最大規模の研究会である。参加者は800名近くであり、29件のレビュー講演と644件のポスター講演があった。さらに、JWSTの最新成果をまとめる公開の特別セッションも開催した。研究会では、最近10年程度の進展の振り返りと今後の方向性に関する活発な議論が展開され、科学諮問委員(SAC)の間では、次のProtostars and Planets VIII開催に向けた前向きな議論もなされた。(報告書原文)

助成額：1件 400,000円

④ 今井 裕 (鹿児島大学総合教育機構 共通教育センター 准教授)

会議名：第380回国際天文学連合シンポジウム：宇宙メーザー研究会

開催期間：2023/3/20～2023/3/24

開催場所：ライカ南国ホール (鹿児島県鹿児島市)

参加国数：28カ国 参加者数：172名

参加報告：本集会はハイブリッド(対面+遠隔)形式で開催され、宇宙メーザーに関する国際会議としては過去最大規模となった。発表された科学成果は主に、宇宙メーザ一天体に対する最新装置を用いた電波撮像や長期間に渡る監視観測に基づくものであった。主テーマは、(1)宇宙論・メガメーザー源、(2)天の川銀河の立体・動力学的構造、(3)大質量星形成機構、(4)終末星における星の脈動変光と物質放出、(5)宇宙メーザーの理論モデル、(6)新しいメーザー研究のプロジェクトや将来の観測装置である。国際共同観測事業の打ち合わせも実施され、名実共に活気に満ちた集会となった。(報告書原文)

助成額：1件 400,000円

⑤ 野村 英子 (国立天文台 教授)

会議名 : Molecules in Extreme Environments: Near and Far

開催期間 : 2022/11/23~2022/11/25

開催場所 : 国立天文台三鷹キャンパス

参加国数 : 15 カ国 参加者数 : 国内 50 名 ・ 海外 30 名

参加報告 : 紫外線・X 線・宇宙線・衝撃波などに晒された極限環境における星間化学を軸に、系外惑星大気、原始惑星系円盤、分子雲、銀河中心、系外銀河といった、様々な階層の天体の研究を行う研究者が一堂に会し、各分野の共通の課題や問題点について議論した。特に、諸天体の物理・化学の理論モデルに基づき、分子線の観測から如何に天体の情報を導くかについて、議論を行った。一方で、コロナ禍で海外の研究者との交流の機会を持つことができなかった若手研究者に、研究発表の機会を与え、また、招待講演者などと交流を行い、今後の研究の糧とする場も設けた。 (報告書原文)

助成額 : 1 件 300,000 円

⑥ 河野 孝太郎 (東京大学大学院理学系研究科 教授)

会議名 : 第 4 回チリ日本学術フォーラム workshop 1+6 "Astronomy, Astronomical Instrumentation, Microsatellites & Space Imaging"

開催期間 : 2022/11/28~2022/12/1

開催場所 : プエルトバラス (チリ)

参加国数 : 3 カ国 参加者数 : 4 5 名

参加報告 : 天文学におけるチリとの研究交流の重要性はますます高まっている。本集会では (1) 東京大学木曾観測所シュミット望遠鏡 Tomo-e やすばる HSC を使った時間軸天文学, (2) アルマをはじめとするサブミリ波での銀河と星間物質や星形成活動の研究, (3) 銀河と超大質量ブラックホールとの共進化及び関連分野, (4) 先進的な技術開発, 等の討議を行い, 共同研究の深化及び新たな交流を進めることができた。将来を担う大学院生が国際交流を経験できたことも非常に大きな成果である。天文学振興財団からの支援に深く感謝する。 (報告書原文)

助成額 : 1 件 175,900 円

[2] 普及・啓発支援事業

普及・啓発支援事業の助成は以下のとおり。

第 1 回公募 (スターウィーク協力イベント以外 申請 : 9 件、助成 : 7 件)

申請額計 : 4,344,231 円 【助成額計 : 1,606,725 円】

(スター・ウィーク協力イベント 申請：9件、助成：9件)

申請額計： 367,640円 【助成額計：324,023円】

第2回公募(申請：4件、助成：3件)申請額計：726,000円【助成額計：267,600円】

第3回公募(申請：2件、助成：2件)申請額計：335,445円【助成額計：282,645円】

【年度計】申請：24件、助成：21件

【年度計】申請額総計：5,773,316円【助成額総計：2,480,993円】

[1] 第1回公募

①事業名：①「楽しい宇宙と望遠鏡講座(内部講師の講座)」、②「天文宇宙講演(外部講師による講演)」、③「天体観察会」、④「天体観察会(土星、木星を見よう)」

申請責任者：縦山 淳司(関西で星を学ぶ会 代表)

実施日：①2022年7月17日、②2022年8月28日、③2022年9月3日(中止)、④2022年10月29日

実施場所：①大阪市住吉区 荻田土地改良記念会館、②大阪市住吉区 荻田土地改良記念会館、③中止、④大阪市住吉区 浅香中央公園

参加者数：①受講者15名、講師1名、スタッフ2名、②受講者20名、講師1名、スタッフ6名、③中止、④一般参加者約100名、スタッフ6名、

開催報告：(7/17) **【オープニング】** 関西で星を学ぶ会の紹介。代表(講師、縦山 淳司)の自己紹介。スタッフ紹介。行事予定など。**【天体観察の基本】** 目で見る天体の分類の紹介、恒星と惑星の違いを説明。星の日周運動、年周運動を説明。太陽の動き、今年の流星群、天文現象の紹介をした。**【星の図形を学ぼう】** 星と星座を見る楽しみ、星を見るコツを紹介してから、それぞれの星の図形に話を展開した。天の川と夏の大三角、冬の大三角の関係、さらにその他の星の図形を紹介した。**【星座を学ぼう!】** 星座とは何か?星座の歴史をメソポタミア文明での「おひつじ座」の羊飼い説を紹介して、おうし座、ふたご座、かに座、しし座が設定されたことを学習した。黄道十二星座、ヨーロッパに伝わり発展した星座、大航海時代の星座を紹介。さらに大小のある星座、みなみの星座、向き合って対峙する星座、双眼鏡でみると美しい星座を紹介して終了した。

(8/28) **【オープニング】** 講師、プログラム紹介。関西で星を学ぶ会の紹介、行事予定、注意事項など。**【世界の天文普及教育、天文文化の動き】** IAUの構成する9つの部会、事業推進のための4つの推進室の紹介。IAU第31回総会 日程の紹介。障害者が天文と宇宙を楽しむ試み。(手を擦って、暖かくして赤外線を顔で感じ取る。画像を音声に変換する試み。車いすでも観望会やプラネタリウムに参加できるようにする試み。

み。会場の点字での案内図の用意。視覚障害の方を案内する人の手配。即時の通訳など)。心の健康のための天文の紹介。飛行機による 20 秒間の無重力状態の体験の紹介。【世界の天文普及教育、天文文化の動き】モンゴル(ゴビ砂漠の環境破壊のお話、研究者の育成について)から始まりポーランド、ルーマニア、プルエトリコ、イラン、カンボジアの天文普及教育(日時計の作成と観察)の取り組みの紹介。イランの子供たちからの日本へのメッセージの紹介。【質疑応答】スターリンク(イーロンマスクが提供する衛星インターネットアクセス)から宇宙ゴミ、宇宙の軍事利用の可能について。球状星団と楕円銀河の違いについて。

(9/3 中止) 大阪市に大雨警報、その後、大阪府東部に大雨洪水警報が発令されたので、しかたなく中止。

(10/29) 天気は晴れ時々曇り。今回は屈折望遠鏡 5 台を設置。午後 6 時 30 分に天体観察会の開始直後は雲が多かった。次第に雲が減少したが薄い雲は最後まで残ったが天体望遠鏡で星を見るのには支障がなかった。土星、木星、月をそれぞれ天体望遠鏡で見ました。午後 7 時 00 分頃にフリーアナウンサーの叶桂子が来場してお客さんの人数がピークとなりましたので、夏の大三角(ベガ、アルタイル、デネブの 3 個の 1 等星)を紹介して、天の川伝説を午後 7 時 30 分頃に月は三日月のため見えなくなりました。それでも月のクレーターは見えまして、見えない天の川から光害の話をした。午後 7 時 43 分頃にイオ(ガリレオ衛星 4 個の 1 つ)が、木星の手前を横切るため見えなくなった。薄い雲の影響と気流が安定しないので土星の環のカッシーニの隙間はかろうじてみえたが、木星の大赤班はぼんやりと見えた。惑星の見え味はやや劣る日であった。午後 7 時 45 分頃にアルビレオ(はくちょう座の二重星)、すばる(おうし座の散開星団)を天体望遠鏡で見て午後 8 時に終了となりました。(以上、全て報告書原文)

助成額 : 1件 46,725円

② 事業名 : 「天文学者へのオーラルヒストリーによる現代日本天文学史の基礎調査」

申請責任者 : 高橋 慶太郎 (熊本大学大学院先端科学研究部 教授)

実施期間 : 2022年7月～2023年3月

成果報告 : 前年度に引き続き、小平桂一氏、佐藤勝彦氏、佐藤文隆氏、日江井榮二郎氏にインタビューを行い、日本の天文学の発展の経過や天文学をめぐる状況の変化などについて伺った。また、今年度より新たに池内了氏、石黒正人氏、田原博人氏へのインタビューも開始した。天文月報では小平桂一氏のインタ

ビュー記事全12回が2022年10月号で完結した。そして2023年4月号より佐藤文隆氏のインタビュー記事が連載される予定である。（報告書原文）

助成額 : 1件 500,000円

③ 事業名 : 「でんスポ天体観望会」

申請責任者 : 伊藤 麗 (市民活動団体Zinnia 代表)

実施日 : 2022年8月12日～13日、2022年9月10日

実施場所 : 北神戸田園スポーツ公園 (メイン球場: あじさいスタジアム)

参加者数 : 8月: 24組 (95名)、9月: 72組 (260名)

開催報告 : 8月の流星群キャンプ (あじさいスタジアム星空キャンプ) では野球場の人工芝で、ゆったりと星を眺めて頂きました。初めて流れ星を見た子供も多く星空への興味がわいたようでした。9月の観望会 (天体望遠鏡で月と星を見よう) では15台の望遠鏡が稼働し、月・土星・木星を中心に眼視観望を体験。また、見回りスタッフに双眼鏡を持たせ、並んでいる参加者に双眼鏡での観察を体験してもらいました。望遠鏡だけでなく、双眼鏡での観望に感動された参加者が多くいました。

(報告書原文)

助成額 : 1件 150,000円

④ 事業名 : 「小学生夏休み宇宙パラシュート教室」 (Youtube ライブ配信有)

申請責任者 : キッズ作文教室omoio代表 岡田久恵

実施日 : 2022年8月7日

実施場所 : 豊橋市こども未来館ここにこ

参加者数 : 小学1～6年生 計72名 (定員80名)

開催報告 : 外部講師によるふうせん宇宙撮影のお話とパラシュート作りを実施。

(関連イベント ロボットプログラミング体験、超音波カッター体験、コードモンキープログラミング体験、ベスト定規デモ体験)

参加者からは「はじめてのことがしれてうれしいです。」「ききゅうでうちゅうにいけるなんてびっくりした!」「始めはやりたくなかったけれどやたら楽しかったからまたやりたいと思いました。またきたいきもちになりました。」

「本で見たことがある写真もあり、とても楽しかったです。動画になっていた部分はとてもわかりやすかったです。とよはしまできてくれてありがとうございます!」「今年もありがとうございました。1年生から毎年来ています。」

などの感想が寄せられました。(報告書原文)

助成額 : 1件 200,000円

⑤ 事業名 : 「Mitakaによる3D上映と天文学普及」

申請責任者 : 穂積 正人 (兵庫県立舞子高等学校 教諭)

実施期間 : 2022年9月～

実施場所 : 主に、神戸市内

参加者数 : 1回当たり10～最大40人を1日2～5回上映

開催報告 : 観望会で、「3D宇宙旅行」と称して、Mitaka の上映を行っています。本校の特徴は、どこの会場にでも運搬できて、お客様に3Dの映像を見ていただくことができるようにしたもので、おそらく、めずらしい存在だと思います。来場者からも大人気で、これを目当てに来られる方々も多くおられます。また、天候が悪く、星の観察ができない時でも、来られたお客様に対し、より詳しく、長めのプログラムを用意しています。

おかげ様で、一部購入できた、3Dメガネと新しいパソコンで見るMitakaの映像は、色も明るく、きれいで、スムーズに動き、御覧になったお客様から「すばらしいですね」「よく、宇宙の姿がわかりました」などの声をいただいています。今後は、リピータで来られる方も多いため、内容の異なるプログラムを作っていこうと考えています。(報告書原文)

助成額 : 1件 160,000円

⑥事業名 : 「もしも君が杜の都で天文学者になったら2022」

申請責任者 : 「もし天2022」実行委員会 板由房 (東北大学大学院理学研究科 助教)

実施日 : 2022年12月23、24、25、26、27、28、29日

実施場所 : 東北大学理学部・仙台市天文台

参加者数 : 12名

開催報告 : 作文審査で選ばれた大阪から北海道までの全国12名の高校生・高専生が受講した。コロナ対策をしながら3年ぶりの対面開催となった。4名1組の3つの班に分かれて、受講生自ら研究課題を立案し、観測計画を建てて仙台市天文台の口径1.3mの'ひとみ'望遠鏡で観測を行った。自ら望遠鏡を操作して得られる天体画像が画面に現れるたびに受講生から感嘆の声が上がった。最終日の研究成果発表会には仙台市民を含む20名弱の一般聴講参加者があり、Youtubeでも同時配信を行った。聴講者からは受講生達の研究のレベルの高さに感嘆の声があがった。(報告書原文)

助成額 : 1件 250,000円

⑦ 事業名 : 「星のコテージ望遠鏡群のインターネット天文台化にかかる予備研究」

申請責任者 : 公立鳥取環境大学 教授 千代西尾 祐司

実施日 : 2022年7月～2023年3月

実施場所 : さじアストロパーク (鳥取県鳥取市)

開催報告 : 従来、さじアストロパークには実験的に使ってみるインターネット光回線がなかった。しかし、この助成により光回線を引くことができ、さじアストロパーク母屋に来ているインターネット回線を、無線で2棟のコテージに飛ばせるようになった。最も最初に必要なインターネット回線の整備に助成金のすべてを注ぎ込んだ。10月にインターネット回線工事が終了し、今後は実験に使うためのスライディングルーフ小屋に星のコテージからLAN配線と電源を這わせ、実験を開始する予定である。(報告書原文)

助成額 : 1件 300,000円

○スター・ウィーク2022 協力イベントに対する助成 ⑧～⑩ 計 9件

助成額計 : 327,640円

全体主催 : スター・ウィーク実行委員会

開催時期 : 令和4(2022)年7月～8月

協力イベント :

⑧ 事業名 : 「STAR WEEK 2022 夏の星空観察会」

主催者 : 山中温泉ゆけむり倶楽部

開催日 : 2021/8/4

開催場所 : 石川健民体育館駐車場など

参加者数 : 会場 40名、オンライン 250名

開催報告 : 依然コロナウイルスによる影響が及ぶ中、ことしの「スターウィーク協賛・夏の星空観察会」の日程は旧暦七夕である8月4日とした。開催には直前までウイルスの感染状況を見極めながら、80組の事前登録者限定方式として行った。「星空観察ノート2022」は登録者と天文履修学年である地元小学校4学年全員に事前配布した。

8月4日当日、石川県南部は未曾有の豪雨により観察会自体は中止の案内を出したが、スタッフが待機する中、多くの人々が会場を訪れた。その間一瞬の晴れ間があり、上弦前の月や夏の大三角、ISS、土星などを観望することができた。このようすは事前の告知により、多くの方々が在宅で同時に空に目を向けた。一連のレポートは「プラネタリウムニュース」として参加予定者や、一般の住民にも配布をした。

コロナ禍により困難を極めた2年間であるが、その経験を活かしたことが各方面で評価され、石川県全戸配布の広報に掲載されたり、地元紙の表彰を受けるなど、人材育成や天文普及に大きな貢献を果たすことになった。

(報告書原文)

助成額 : 1件 58,700円

⑨ 事業名 : 「2022 夏 星空案内 in 西宮ガーデンズ」

主催者 : 星のソムリエ@西宮

開催日 : 2022年8月28日

開催場所 : 阪急西宮ガーデンズ本館 4F

参加者数 : 会場 64名

開催報告 : ・新型コロナの感染状況が予断を許さない中で、当イベントの事前申込を開始したところ、観望会は開始日の昼ごろ、プラネタリウムの方も当日の夕方に、いずれの回も定員に達し、受付を終了するほどの盛況ぶりであった。

- ・当日は、雨天情報のため、残念ながら屋外の観望会は中止となったが、屋内のプラネタリウム投影会は、予定通り多くの参加者のもと、実施できた。
- ・受付にはスター・ウィークのポスターを掲示したり、ポスターカードを積み置きするなどして、スター・ウィークの認知に努めた。
- ・実施後取った参加者アンケートからは、プラネタリウムの番組について、「もう少し子どもでも親しみが持てるような説明があってもよかったかなと思いました」の意見があり、今後は、施設の来場者層を踏まえて、子ども向けの番組も制作するとともに、番組が大人向け/子ども向けの説明などを加える必要があると反省。(報告書原文)

助成額 : 1件 5,010円

⑩ 事業名 : 「七夕星まつり・スターウィーク特別夜間観望会」

主催者 : 尾鷲市立天文科学館

実施日 : 2022年7月29日

実施場所 : 尾鷲市立天文科学館

参加者数 : 70人

開催報告 : 尾鷲市立天文科学館では、小中学生に星や宇宙に興味を持ってもらいたいことや親子で天体観望をしてもらいたいことを趣旨に、今年も同イベントをスターウィーク啓発イベントとして7月29日金曜日に実施いたしました。同イベントは、開館以来、毎年実施しています。今年も新型コロナウイルス感染症の影響もあり前日に催しを変更する等、厳重な感染症対策の中開催しましたが、70名の参加者があり、ゲームを通して楽しみながら星の学習や木星の観察等、星の観望を体験するよい機会となりました。(報告書原文)

助成額 : 1件 60,000円

⑪ 事業名：「みんなで楽しむ天文・宇宙」

主催者：舞子天文同好会

実施日：2022年7月～11月

実施場所：加古川総合文化センター、舞子公園、コープこうべ、長田野田自治会館

参加者数：加古川総合文化センター（12名、保護者15名）、舞子公園（16名、保護者8名）
コープこうべ（15名、保護者18名）、長田野田自治会館（10名）

開催報告：実際に望遠鏡を覗いてもらうと、子どもだけでなく、保護者からも「すごい」「こんなに見えるんですね」など感嘆と驚きの声があがります。自分で作った望遠鏡で屋外に出て、実際に星空を観察してもらっています。作る望遠鏡は、40倍程度の望遠鏡で、月のクレーターや土星の輪を確認することができます。自分で作った望遠鏡でみたら、一段とすばらしい感動を受けます。月や火星を見たときには、「うあ、すごい」「本物や」などの声が響きました。その後、当方がセットした80mmや200mmの望遠鏡を覗いていただくと、また違った感激があると思います。その上、簡易プラネタリウムやMitakaの上映・ロケット模型製作・星座盤製作などを行いました。また、SDGsにも掲げられているように、クリーンなエネルギーで、都会でもより多くの星空が見られるように、光害を減らし、豊かな自然環境豊の素で生活が送れるようにお声がけを行いました。

（報告書原文）

助成額：1件 70,000円

⑫ 事業名：「星や宇宙を楽しむ会」

主催者：オレンジカフェ

実施日：2022年8月2日

実施場所：和カフェ月（ゆえ）

参加者数：13人

開催報告：スターウィーク期間中のオレンジカフェ開催日とあって、星や宇宙に興味のある高齢者の方、主催者の友人、地域包括支援員の方など8名が参加した。

まず始めに、望遠鏡工作セットを組み立てて、星空案内人でもある担当者の撮影した月の写真などが投影されたスクリーンを、作った望遠鏡で覗いてもらった。望遠鏡工作セットとは言え、正立像で見えて、倍率も3倍から5倍程度とあって、月のクレーターの様子や、月面Xの部分、木星の衛星などの様子を大きく見ることができた。高齢者の方々にとって、手作りの望遠鏡で何かを見るという体験自体も初めてで、童心に帰って喜んでおられた。また、視力に衰えを感じておられる方も多いので、望遠鏡で覗くことで安心して、画面を見ながら夏の星空等の解説を聞くこともできたということであった。

次に、スターウィーク実行委員会から送ってもらったミニブックを作製し、

その後、秋田大学教育文化学部天文台とZoom中継を通して、毛利春治技術長さんから、ミニブックの使い方の説明や、スターウィークについてのお話をしていただいた。また、秋田大学教育文化学部天文台の様子も紹介していただき、どんな天体望遠鏡があるかを見ることができただけでなく、市民のための天体観察の活動についてもお話していただくことができた。高齢者の方は夜間の天体銀察を一緒に行うことはできないので、オレンジカフェの会場では引き続き高齢者以外の参加者を募って、7名で19:00から夜間の天体観察を行った。ちょうど、秋田大学教育文化学部天文台でもスターウィークイベントを実施しており、Zoom中継に参加したり、今回の助成金で購入してもらったサイトロンポータブル天体望遠鏡MAXSYG060で、月の様子を銀察することができた。その際、参加者には、手作り望遠鏡でも月を観察してもらい、充分に見えることを実感してもらった。

全体を通して、望遠鏡工作セットについて参加者からは、「手作り望遠鏡は簡単に作れてよい。」「小さいのにちゃんと見える。」「持ち運びに便利。」「夜に自分で見たいときに見ることができる。」「エコな材料で良い。」という感想があった。また、スターウィークについてや、秋田大学教育文化学部天文台に関して、「初めて知ることが多かった。」「易しく説明してくれたので、ますます星を見たくなった。」「天文台に行って、天体望遠鏡を覗いてみたい。」という感想があった。高齢者の方々からは、「天の川とは何か不思議だった。」「大きな流れ星が落ちて行くのを見たことがある。」「昔はよく星空を見上げていたが、最近はそんなことがなかったので、思い出すことができた。」

「これからも、月が出ていたら手作り望遠鏡で見るようにしたい。」などとたくさん話題が出され、オレンジカフェのスターウィーク協カイベントは大いに盛り上がることができた。（報告書原文）

助成額 : 1件 31,975円

⑬ 事業名 : 「夜間天体観察会ーさまざまな月齢の月面の 電子観望をしよう」

主催者 : 秋田大学教育文化学部天文台

実施日 : 2022年8月1日、2日、3日

実施場所 : インターネット開催 (Zoomウェブ会議)

参加者数 : 8月1日 (4名)、2日 (10名)、3日 (6名)

開催報告 : Zoom ウェブ会議システムを利用して、「さまざまな月齢の月面の電子観望をしよう」を行った。はじめに、スライドを使用してスター・ウィークと本イベントの説明を行った。最初に、実際の天体観望として、実際に見えている月を肉眼や双眼鏡などで観察してもらった。次に、天体の電子観望について解説を行い、

スマートフォンのカメラから見える現在の月について、Zoomを通して望遠鏡を使わない場合と使った場合の電子観望をしてもらった。次に事前に撮影しておいた異なった月齢の月の動画を見てもらった。次に、国立天文台4次元デジタル宇宙プロジェクトのMitakaの月のシミュレーション映像を見てもらった。最後に、国立天文台のオンライン定例観望会について、ホームページを見ながらライブ配信とアーカイブ録画の違いについて説明した。

イベント終了後にアンケートを行い11名から回答を得た。「イベントは楽しかったですか?」の設問では、「とても楽しかった」が4名、「まあまあ楽しかった」が7名であった。「実際の月を観察しましたか?」の設問では、「肉眼で観察した」が5名、「双眼鏡や望遠鏡で観察した」が4名、「観察しなかった」が2名であった。「電子観望の月を観察しましたか?」の設問では、「パソコンの画面(14インチくらい)で観察した」が7名、「タブレットの画面(9インチくらい)で観察した」が3名、「スマートフォンの画面(5インチくらい)で観察した」が1名であった。「実際の月と、電子観望の月はどうでしたか?」の設問では、「実際の月が良かった」が0名、「電子観望の月が良かった」が3名、「両方とも良かった」が8名であった。「現在の電子観望の月と、過去の電子観望の月はどうでしたか?」の設問では、「現在の電子観望の月が良かった」が4名、「過去の電子観望の月が良かった」が0名、「両方とも良かった」が7名であった。「月やその他の天体を電子観望したいと思いますか?」の設問では、「とても思う」が6名、「まあまあ思う」が5名であった。「月やその他の天体を天体望遠鏡で観察したいと思いますか?」の設問では、「とても思う」が6名、「まあまあ思う」が4名、「あまり思わない」が1名であった。「Mitakaの月と電子観望の月はどうでしたか?」の設問では、「Mitakaの方が良かった」が2名、「電子観望の方が良かった」が1名、「両方とも良かった」が7名、「どちらでもない」が1名であった。また、チャットで、「シミュレーションの方はクリエイターがくっきりしているので写真のように綺麗な感じですね」、「私も、時々YouTubeで見えています」と感想があった。

アンケート結果から、現在の月では電子観望の月の方が実際の月より良く、電子観望では現在の月の方が過去の月より良いということが分かった。今後の天体観察について、電子観望については11名全員が「思う」と回答したのに対して、実際の天体については1名が「あまり思わない」という回答があり、実際の天体の観察より電子観望への期待が高いことが考えられる。また、Mitakaシミュレーションの月の方が、電子観望の月よりも良かったという回答が1名多かったことより、高精度で再現された月のシミュレーション映像も、天体観察・電子観望のひとつとして期待できることが分かった。本イベントを通して市民は天体の電子観望について理解を深めて興味関心を高めることができ、今後、各自で

インターネットを使用して電子観望を行っていくことが期待される。

(報告書原文)

助成額 : 1件 33,770円

⑭ 事業名 : 「スター・ウィーク2022キャンペーン (ポスター及びポストカードの配付)」

主催者 : スター・ウィーク実行委員会

実施期間 : 2022年7月19日～2022年8月7日

参加団体 : 50団体

開催報告 : 今年度もCOVID-19の感染状況を注視しつつ、ポスターの配布手段となる会合や研究会が対面とオンラインのハイブリッド開催になったことを受け、昨年に同じくポスターとポストカードの郵送配布をweb上で募集することを企画した。

申込は公式サイト内のフォームからのみとし、1セット (ポスター1部・ポストカード25部) を無料送付とした。配付申込期間は7/20から8/7とし、最終的に50の施設・団体から申込を受けた。また、今年もTwitterによるプレゼントキャンペーンの実施を企画。ポスターとポストカードのセットを10名に、来年度に向けて試作をした。ポスターデザインをプリントしたエコクリアファイルを10名にプレゼントとした。投稿件数50件の中から抽選を行い、8月20日までにすべての発送を完了。期間中は公式サイトと共にTwitter等のSNSにてキャンペーン等の告知を投稿。イベントの「掲示板・いま星を見えています」への参加誘導に効果をもたらした。今回は、Twitterに装備された音声のライブ配信機能「スペース」を使用して、期間中は8/4、8/7、参加者の要望を受けて9/9の中秋の名月前夜にも配信を実施。計133名が参加した。(報告書原文)

助成額 : 1件 13,905円

⑮ 事業名 : 「天体観望会」

主催者 : 日野市立仲田小学校PTA

実施日 : 2022年10月6日、11月30日

実施場所 : 日野市立仲田小学校体育館・校庭東側

参加者数 : 154名

開催報告 : ①解説会

府中市郷土の森博物館プラネタリウム解説員 (田中真理様) より、月や星など観望会で観察できる天体の説明、星図の見方などをクイズを交えて、親子で楽しめる解説をしていただきました。両日とも子供も保護者も盛り上がっていました。

10/6は雨の為、体育館での解説となりました。雨の日の特別動画として種子

島宇宙センターのロケット打ち上げの話と動画上映を追加で行っていただきました。

②天体観望

観察対象は月 木星、土星、火星 はくちょう座のアルビレオの予定でしたが両日とも天候不良のため観察はできませんでした。

10/6は雨のため、体育館内に望遠鏡6台・双眼鏡1台を設置し、体育館の壁に貼った星の画像を観察しました。望遠鏡の協力を頂いた府中天文同好会、星つむぎの村他の方々に望遠鏡の横で、望遠鏡の説明や星のお話をさせていただきました。望遠鏡で対象物を観るのが始めての子供・保護者も多く、普段接することのできない大きな望遠鏡もあり、色々な質問をしながら興味深そうに、楽しそうに観察していました。

11/30は校庭に望遠鏡を6台+双眼鏡1台を設置しましたが、厚い雲の為直接星を見ることが出来なかったため、鉄橋のライトや、自動販売機などを観察しました。日ごろと異なる見え方に子供も保護者も盛り上がっていました。

(報告書原文)

助成額 : 1件 31,213円

⑩ 事業名 : 「スターウイーク 夏の星空観望会」

主催者 : 加古川宇宙科学同好会

実施日 : 2022年8月6日

実施場所 : 三木ホースランドパーク エオの森研修センター

参加者数 : 60名

開催報告 : 観望1

最初に、月の観望をしました。明るい時間帯に天体望遠鏡に慣れることも兼ねて観望。初めてクレーターを見る方も多く驚いた様子が伝わってきました。

続いて、体育館にて室内プログラム

星・宇宙ニュース

最新の星・宇宙関連のニュースとスターウイークの紹介。

クイズに答えてスタッフ撮影の土星や月面の天体写真をプレゼントしました。

星座びんごゲーム

25のマス目に88の星座の中から好きな星座名を書き込み、後でスタッフの読み上げる星座が5つ揃えばビンゴ! 星座グッズをプレゼント。沢山の星座を知ることでもでき好評でした。

パソコンプラネタリウム+星のクイズ

プロジェクターによるパソコンプラネタリウムで今夜の星空の予習です。最後のおさらいクイズで光る星をプレゼント。沢山の子供たちの手が上がりました。

星空GO

パソコンの抽選アプリを利用した星座グッズの抽選会。参加者全員にチャンスがあるので大盛り上がりでした。

再び野外に出でのプログラム開始

星空オリエンテーリング

星空オリエンテーリングカードに記入されているお題の天体を実際の星空を見ながら探します。肉眼、双眼鏡、星座早見盤、望遠鏡を駆使して確認できた天体をチェックしていきます。夏休みの自由研究にちょうど良いと評判でした。

観望2

やはり、月、土星、アルビレオ、ミザールなどは、見ごたえがあったようで、参加者の皆さんにも好評でした。七夕の星々も明るくきれいな輝きに感動されていました。

星空ガイド

星空ガイドはレーザー光線にて実際の星々を指し示すことができるので夏の天三角、七夕の星々、さそり座、人工衛星などはじめて結べたり、見たりすることができ感動されていました。

更に少し延長

星雲星団など予定外の対象を天体望遠鏡で見る時間を取りました。また月の写真をスマホで撮影したいの声に応じて天体写真チャレンジのお手伝いをしました。お母さん方にとっても好評で粘り強くチャレンジされていました。

(報告書原文)

助成額 : 1件 19,450円

[2] 第2回公募

- ① 事業名 : ①「宇宙のおはなしと望遠鏡講座」、②天体観察会「土星、木星、火星を見よう」、③天文宇宙講演『彗星や流星から広がる世界—古天文から現代天文』、④子ども～大人まで楽しめる天文教室(惑星を学ぼう)、⑤天体観察会「木星、火星、土星と金星の接近を見よう」

申請責任者 : 縦山 淳司 (関西で星を学ぶ会 代表)

実施日 : ①2022年11月12日、②2022年11月26日、③2022年12月3日、④2022年12月17日、⑤2023年1月21日

実施場所 : ①大阪市立総合生涯学習センター、②大阪市住吉区 浅香中央公園、③大阪市

立総合生涯学習センター、④大阪市住吉区 荻田土地改良記念会館、⑤大阪市住吉区 浅香中央公園

参加者数 : ①7名、②50名、③11名、④11名、⑤約50名

開催報告 : (11/12)「星雲、星団を学ぼう」と題して講座を開催した。【天文ソフトによる学習】ステラリュウムで11月8日の皆既月食と天王星食、23年1月21日、3月25日の星空を投影して天体観察会の予習をした。【天体観察の基本】星図の見方、星の日周運動、年周運動などを学習した。【星雲、星団を学ぼう】暗黒星雲に始まって、散光星雲、散開星団、惑星状星雲、超新星残骸、球状星団、と星の一生と関連させて学習した。【星雲、星団のカatalogとメシエ天体】メシエカatalog、ニュージェネラルカatalog、インデックスカatalog、メロットカatalogを紹介して、メシエ天体を知るきっかけとなりました。

(11/26) 当日の天候は「晴れ時々曇り」。晴れていれば全天の星が見えるが、曇ると全天の星があつという間に見えなくなる日でした。開始直前に細い三日月が見えたがすぐに地平線に沈みました。土星、木星、火星と見る事ができました。木星のガリレオ衛星の4個が見えました。土星の環が美しかったです。火星を見た後に、他の天体を見たかったのですが曇っていて見えませんでした。

(12/3)『彗星や流星から広がる世界—古天文から現代天文へ—』と称して天文宇宙講演をおこなった。【第一部:古天文学における彗星や流星】は最初に“導入”として「アンケート:彗星、流星を見たことがある?ない?」から始まり、「クイズ:彗星、流星はどちらでしょうか?」をおこなって天文現象の学習する雰囲気を高めた。次に“古天文学”について学習した。天文現象「彗星、流星、オーロラ、大気光学現象」のわかりやすい説明があり、「漢文クイズ」をおこなった。【第二部:現代天文学における彗星】として彗星とは何か?を学習して、彗星の観測、暗黒物質(ダークマター)が彗星に与える影響まで紹介した。

(12/17)『子ども→大人まで楽しめる天文教室』(惑星を学ぼう)と題してについて学習した。(天候は雨。室内プログラムのみで開催)初めて受講した人のために、「オープニング」に関西で星を学ぶ会の紹介をおこなった。「天体観察の基本」では中学校の理科にある「星の日周運動、年周運動」を学習、星の肉眼で見るポイントを説明した。「惑星を学ぼう」では、太陽系の惑星を(地球からの位置の分類、内惑星と外惑星)と(地質学上の分類、岩石惑星、ガス惑星、氷惑星)を紹介。天体観察会で見るポイントを交えて、天文シュミレーションソフト(ミタカ)、ステラリュウムも活用して講座をおこなった。

(1/21) 当日は金星と土星が接近していて双眼鏡で同一視界に見える日でした。天候は「晴れ時々曇り」。晴れている時間が長く、星を見るのに適していた。寒いのか?開始前の早い時間帯から人が集まりだした割には、途中から人が少なくなり、後半は参加者が少なかった。開始直後から土星、金星が見えており、低空ギリギリの割には意外に長い時間、天体望遠鏡で見せることができました。木星、火星、すぼる、オリオン座の大星雲を天体望遠鏡で見て終了となりました。参加者の皆さんに満足していただけたと思います。(以上、全て報告書原文)

助成額 : 1件 57,600円

② 事業名 : 「皆既日食で取得されたデータのアーカイブ化」

申請責任者 : 日江井 榮二郎 (国立天文台 名誉教授)

実施報告 : 前回事業で行った1958年スワロフ島日食および1962年ペルー日食で取得されたフラッシュスペクトルのフィルムデータのデジタル化に続き、1936年から1980年にかけて東京天文台として派遣した8カ所の日食隊が、撮像し持ち帰ったデータ類を調査・整理した。保存状態の良いフィルム、乾板などおよそ200枚以上を高精度スキャナーでデジタル化し、国立天文台太陽観測科学プロジェクトの管理するサーバーに保管、ホームページ上での公開に向けて準備を行っている(報告書原文)

助成額 : 1件 140,000円

③ 事業名 : 「宇宙へのまなざし授業」

申請責任者 : 日江井 榮二郎 (国立天文台 名誉教授)

実施日 : 2022年11月1日～11月3日

実施場所 : 広島県情報プラザ

参加者数 : 大人20名、小学生25名

開催報告 : 広島県立図書館は毎年11月3日に子ども関連の催しを行っており、県知事や教育長の支援のもと企画された「ひろしま子どもサイエンスライブラリー」の初年になるので、その一環として、子供向けの天文の本の推薦と講演を依頼された。推薦本は国立天文台図書室の小栗順子氏の助けを借りて、小学生低学年用として25冊、高学年用として30冊を推薦した。さらに、国立天文台で作成されている国立天文台案内や見学ワークブックなど子供向きの資料を頂きそれら郵送した。

講演は13:30から、途中休憩を入れて90分間、演題は「太陽の不思議、月とのつながり、一私たちは星の子」。数日後には皆既月食を観察できるのでその話も行った。演題に先立ち、芭蕉の唱える「不易・流行」と次元の話をした。現

代はmisleadingな情報が多いので、その流行に流されない自己を作ることが大切あり、その為には、小林秀雄に学んだ本モノを本モノと認めるコツを話す。その後、私たちの体は138億年の歴史を持っていて、宇宙は私たちの故郷であると話す。13.8mの紐で138億年の長さや100年の短さを示し、また、太陽・地球・月の大きさの比較、互いの距離を話し、宇宙は時間的にも空間的にも悠久で宏大であることを納得してもらえよう努力した。まとめると宇宙138億年の歴史、恒星の誕生・変遷・死の現象をパワーポイントを使いながら話した。ガモフの不思議な絵を見せ、皆の感想を聞き、その後質疑に応えた。

広島・佐伯高校3年生塩田成陽さんが、“日本天文学オリンピック”に優勝したということで、同校の担任教師と一緒に会場に現れ、子供たちと鼎談をした。その後広島市こども文化科学館に行き、同所の職員と話をした。ここでは内海和彦氏の世話になったという話をしばしば聞いた。プラネタリウム室にも案内された。このプラネタリウムは光学式であり、直径20mという大ドームに投影される星々は趣のあるものと感じた。（報告書原文）

助成額 : 1件 70,000円

[3] 第3回公募

①事業名 : 『宇宙のおはなしと望遠鏡講座』（天の川銀河と系外銀河を学ぼう）

申請責任者 : 樫山 淳司（関西で星を学ぶ会 代表）

実施日 : 2023年4月1日

実施場所 : 大阪市立 阿倍野市民学習センター「特別会議室」

参加者数 : 15名

実施報告 : 「天の川銀河と系外銀河を学ぼう」と題して講座を開催した。銀河を学習する前に基本的な項目として【天体観察の基本、恒星】星の日周運動、年周運動などを学習した。【天体観察の基本、星の図形】夏の大三角、冬の大三角、春の大曲線などを紹介した。【天の川銀河を学ぼう】1本の川のように見える天の川が夏の大三角、冬の大三角のどこを流れているのか？ 銀河系の渦巻の腕と星座の方向の関係、銀河の基本構造、銀河の分類の紹介をした。

【系外銀河を学ぼう】系外銀河の定義、系外銀河の分類、系外銀河の青方偏移と赤方偏移、宇宙の果てまで学習した。（報告書原文）

助成額 : 1件 82,645円

②事業名 : 「太陽デジタルアーカイブデータ処理と公開」

申請責任者 : 萩野 正興（国立天文台 天文情報センター 研究支援員）

実施場所 : 国立天文台三鷹キャンパス・オンライン

実施報告 : 東京天文台から国立天文台の時代にかけて行った日食の観測隊記録のうち、1958年のスワロフ島での日食記録と1966年のペルーでの日食記録についてすでにデジタル化されたフィルムを公開するためのwebページのフォーマットの作成を行った。このページの構成は日食情報、観測の記録、データ公開ページとなっている。データ公開ページには画像として閲覧し、データをダウンロードできるようにした。このページは国立天文台太陽観測科学プロジェクトのwebページに組み込まれる。本事業の内容は日本天文学会の教育セッションにて広報する予定である。(報告書原文)

助成額 : 1件 200,000円

3. 研究業績等の表彰事業の概要(公2)

令和2年度から新たに開始した公的目的事業の研究業績等の表彰事業につき、3年度目の事業活動を実施しました。

令和4年度は、[1]古在由秀賞では1件の応募があり、選考委員会での選考の結果、受賞となりました。[2]吉田庄一郎記念・ニコン天文学業績賞は3件の応募があり、選考委員会での選考により1件の受賞者が決定しました。各賞の受賞者は以下のとおり。

[1] 古在由秀賞

(1) 受賞者 : 花山 秀和(国立天文台天文情報センター 石垣島天文台 室長)

受賞題目: 「石垣島天文台の管理運営と天文学の推進に対する優れた業績
(Outstanding Achievements in the Management and Operation of
Ishigakijima Astronomical Observatory and the Promotion of
Astronomy)」

[2] 吉田庄一郎記念・ニコン天文学業績賞

(1) 受賞者 : (代表者) 小谷 隆行(アストロバイオロジーセンター/国立天文台ハワイ観測所/総研大 助教)

受賞題目: 「近赤外線高精度高分散分光器 IRD の開発とその科学的運用 (Development of the high-precision and high-resolution near-infrared spectrometer IRD and its science operation)」

4. その他の事業

① 賛助会員企業向け国立天文台 三鷹キャンパス特別見学会

コロナ禍が収束せず、国立天文台 三鷹キャンパスで、メインである 1) 観望会が実際の観望ができないこと、2) 4D2Uシアターが厳格な人数制限下（2019年に実施した時の約半数）でしか見ることができず、当事務局も、参加する賛助会企業の方でも不公平感無く事前に人数を絞り込むことが困難なこと、から夏休み期間中に開催を予定していた賛助会員企業従業員とその家族を対象とした特別見学会を止む無く中止とした。

② 賛助会員企業への出張講演会

コロナ禍が収束せず、賛助会員企業からの出張講演会開催希望がなかったため、令和4年度も開催なし。

以上